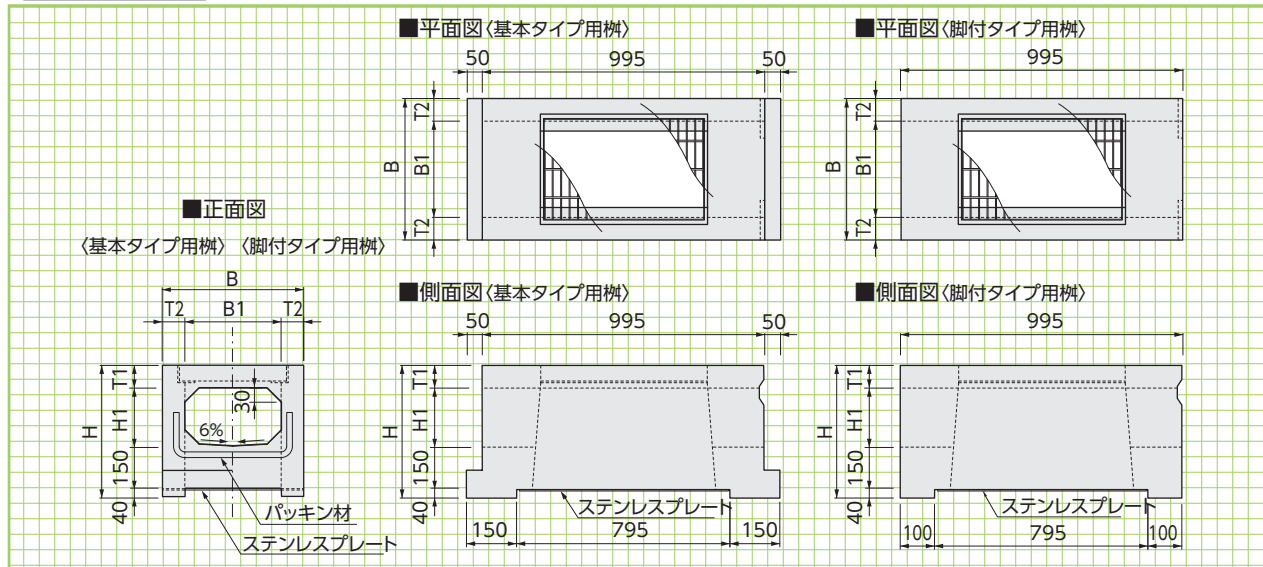


「くけい水路」 特許登録第4112553号

樹
基本形状図

形状・寸法
重量表

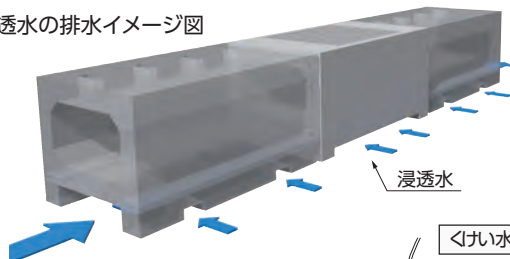
くけい水路 樹



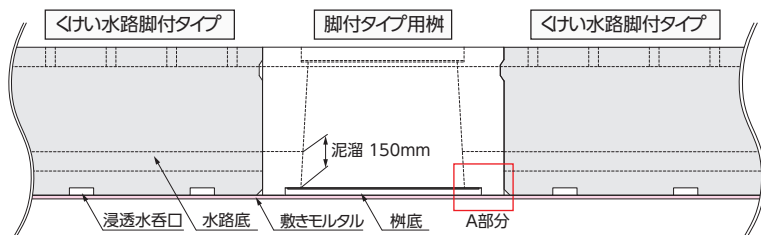
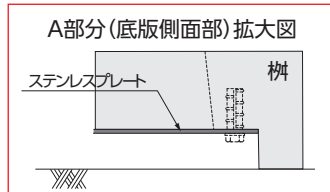
■寸法・重量表

呼 称 (B1×H1)	寸 法(mm)						円形水路 対応寸法	参考重量(基本タイプ) (kg)	参考重量(脚付タイプ) (kg)
	B	B1	H	H1	T1	T2			
220×130	380	220	400	130	80	80	Φ200相当	205	200
320×200	480	320	470	200	80	80	Φ300相当	248	238
420×260	580	420	550	260	100	80	Φ400相当	323	315
520×320	720	520	610	320	100	100	Φ500相当	485	460
630×380	870	630	690	380	120	120	Φ600相当	585	555

■浸透水の排水イメージ図



脚付タイプの水路及び樹は、下部に切欠を設けて水路及び樹を貫通する通水断面を確保しました。これにより、ボックス内の浸透水を効率よく排水することができます。



■参考歩掛り

本体据付歩掛(10m当り)

工程	呼 び 寸 法	規 格	単位	数 量		
				220×130(φ200相当)~ 420×260(φ400相当)	520×320(φ500相当)	630×380(φ5600相当)
据 付 工	くけい水路(基本・脚付タイプ)	L=2m	本	5	5	5
	世話役		人	0.3	0.4	0.5
	特殊作業員		人	0.2	0.3	0.4
	普通作業員		人	0.6	0.9	1.2
	バックホウ(クレーン機能付)運転	クローラ型 クレーン機能付 2.9t吊	日	0.3	0.4	—
	ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型 4.9t吊	日	—	—	0.6
	基礎砕石費率		%	21	21	21
	諸雑費率		%	17	17	17

(注)・国土交通省土木工事積算基準 H25年度版管(函)渠型側溝準拠

- ・歩掛りは、運搬距離30m程度までの小運搬を含むものであり、床掘、埋め戻し、残土処理は含みません。
- ・基礎砕石費、諸雑費は、労務費とバックホウ(クレーン機能付)またはクレーン運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上して下さい。
- ・基礎砕石の敷均し厚は、20cm以下を平均としており、これにより難い場合は別途計上して下さい。
- ・基礎砕石費は、材料の種別・規格に関わらず適用できます。

特許登録第4618740号 「監視員通路縦壁付くけい水路」

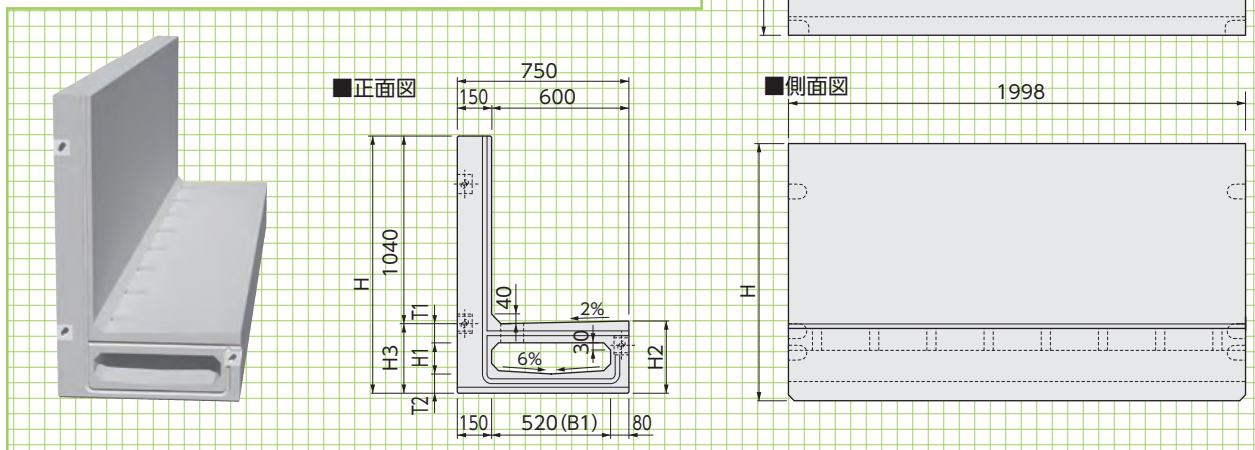
監視員通路縦壁付くけい水路

縦壁と水路を分割させた形状や支柱穴付きも可能です。詳しくは担当営業にご連絡ください。

■寸法・重量表

呼称 (B1×H1)	寸法(mm)						※参考流量 (m³/sec)	円形水路 対応寸法	参考重量 (kg)
	H	H1	H2	H3	T1	T2			
520×130	1330	130	301.2	290	80	80	0.0909	φ300相当	1569
520×240	1460	240	431.2	420	90	90	0.2548	φ400相当	1769

※)流量は水路勾配10.0(‰)、粗度係数0.013、満流にて計算した場合になります。



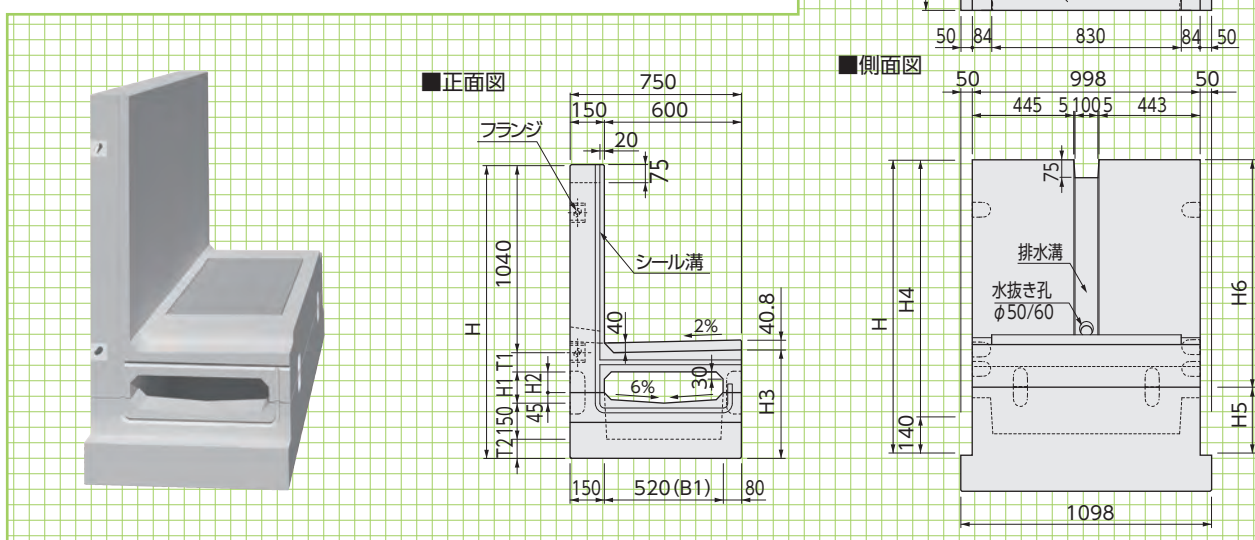
監視員通路縦壁付くけい水路 枒

縦壁と水路を分割させた形状や支柱穴付きも可能です。詳しくは担当営業にご連絡ください。

■寸法・重量表

呼称 (B1×H1)	寸法(mm)									※参考流量 (m³/sec)	円形水路 対応寸法	参考重量 (kg)
	H	H1	H2	H3	H4	H5	H6	T1	T2			
520×130	1480	130	85	451.2	1340	275	1205	80	80	0.0909	φ300相当	822
520×240	1610	240	195	581.2	1470	285	1325	90	90	0.2548	φ400相当	970

※)流量は水路勾配10.0(‰)、粗度係数0.013、満流にて計算した場合になります。



■参考歩掛り

本体据付歩掛(10m当り)

工程	呼び寸法	規格	単位	数量	
				520×130(φ300相当)及び520×240(φ400相当)	
据付工	監視員通路縦壁付くけい水路	L=2m	本	5	
	世話役		人	0.25	
	ブロック工普通		人	0.25	
	作業員		人	0.75	
	ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型 4.9t吊	日	0.3	
	諸雑費率		%	7	

自社の歩掛りです。基礎コンクリート及び基礎砕石は省いています。

注)諸雑費は、労務費とクレーン運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上してください。